



平成25年11月14日

各位

株式会社雪国まいたけ

代表取締役社長 大平 喜信

(コード番号 1378 東証第2部)

問合せ先 取締役兼執行役員

管理本部長 吉川 博志

(TEL. 025-778-0111)

**(訂正) 「平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」
の一部訂正について**

平成23年11月2日付「平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」について訂正がありましたのでお知らせいたします。

1. 訂正の経緯

訂正の経緯につきましては、平成25年10月25日付「不適切な会計処理が行われていた可能性についてのお知らせ」および平成25年11月5日付「社内調査委員会の調査報告書の受領及び当社の対応について」にて開示しておりますので、ご参照ください。

2. 訂正内容

訂正箇所には下線を付して表示しております。

以上

【訂正後】



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年11月2日

上場会社名 株式会社 雪国まいたけ

上場取引所 東

コード番号 1378

URL <http://www.maitake.co.jp/>

代表者（役職名） 代表取締役社長

（氏名） 大平 喜信

問合せ先責任者（役職名） 取締役兼上席執行役員管理本部長

（氏名） 海野 光夫

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

TEL 025-778-0111

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	10,235	△10.2	<u>△3,106</u>	—	<u>△3,500</u>	—	<u>△2,046</u>	—
23年3月期第2四半期	11,397	16.2	<u>△316</u>	—	△690	—	<u>△408</u>	—

（注）包括利益 24年3月期第2四半期 △2,073百万円（－％） 23年3月期第2四半期 △379百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	<u>△56.50</u>	—
23年3月期第2四半期	<u>△11.09</u>	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	<u>40,996</u>	<u>3,499</u>	<u>7.9</u>
23年3月期	<u>38,001</u>	<u>5,917</u>	<u>14.9</u>

（参考）自己資本 24年3月期第2四半期 3,227百万円 23年3月期 5,678百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
24年3月期	—	0.00			
24年3月期（予想）			—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,000	16.9	1,400	△5.9	1,000	10.3	900	28.5	24.85

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社 （社名） 、 除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	38,890,375株	23年3月期	38,890,375株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	2,659,221株	23年3月期	2,691,813株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	36,210,207株	23年3月期2Q	36,885,951株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災により大きな打撃を受けた国内サプライチェーンの回復が進み、萎縮した個人消費にも一部持ち直しの動きが見えてきたものの、電力供給不足や原発事故の影響が長引き、更には欧米の景気減速と財政不安による円高・株安も深刻さを増してくるなど景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、震災後の消費マインドの冷え込みから低価格志向が強まり、また原発事故による放射能汚染の影響から、消費者の食の「安全・安心」に対する意識が一層高まるなど厳しい事業環境となりました。茸市場も、低迷する景況感から年初から安値での相場が続き、東日本大震災の影響がこれに更に拍車をかける形となりました。

こうした環境の中で、当社グループは、消費者視点でのモノ作りを追求し、高品質で安全な食品の提供に取り組んでまいりました。当社では平成20年より、自社製品の農薬・重金属検査の結果を消費者自身が確認できる「雪国まいたけ安全システム」を導入し、積極的な情報開示を行ってまいりましたが、この度の原発事故がもたらした放射能汚染に対する消費者の不安の声を受けて、当社独自の厳密な放射能物質検査機能を導入し、新しい「雪国まいたけ安全システム」として9月15日より稼動開始いたしました。

以上のような取り組みを進めてきた結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は102億35百万円（前年同四半期比10.2%減）となりました。損益面では、販売価格下落の影響と、ぶなしめじ事業の自動化設備の遅れ、品質安定化の遅れによる歩留低下やコスト増加により、営業損失は31億6百万円（前年同四半期は3億16百万円の損失）、経常損失は35億円（前年同四半期は6億90百万円の損失）、四半期純損失は20億46百万円（前年同四半期は4億8百万円の損失）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント		連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
	まいたけ	3,691	86.0
	えりんぎ	1,509	78.0
	ぶなしめじ	1,056	54.3
	その他生茸	338	84.1
	生茸計	6,596	76.9
	加工食品	498	104.5
	茸計	7,094	78.4
	もやし・カット野菜	2,134	152.9
	その他食品	597	109.2
	食品計	9,827	89.4
その他		407	101.7
合計		10,235	89.8

①茸

国内の生茸の販売は、消費全体が収縮する中で茸の需要も低迷し、価格は平年を下回る厳しい相場で推移したことで、販売量、販売価格ともに前年を割り込む結果となりました。また、ぶなしめじにつきましては、前期より生産能力の拡大に向けて製造ラインの新設備の導入を進めてきましたが、一部の設備導入の遅れと品質安定化の遅れから、生産量が減少したことで大幅な売上減となりました。

国外の生茸につきましては、中国における施設栽培茸の需要は底堅く、吉林省長春市で生産・販売するえのき茸は、順調な販売実績を上げており、第2工場の建設も現在急ピッチで進めております。また、四川省に新設しましたえのき茸生産工場は5月より出荷を開始し、上海市に新設しましたぶなしめじ生産工場も8月より出荷を開始しており、中国における茸事業の拡大に向けた取り組みを着実に進めてまいりました。

加工食品は、水煮の販売及び冷凍まいたけ天ぶらの販売が好調に推移いたしました。

以上により茸の売上高は70億94百万円（前年同四半期比21.6%減）となりました。

②もやし・カット野菜

カット野菜の販売は、競合他社との競争が厳しさを増す中で、商品価値、商品完成度の高さ、そして自社での農薬検査等の安全性の高さなどの差別化を図ってきたことが、新たな販路の開拓や取り扱い数量の増加に繋がり売上を大きく伸ばしました。また、もやしにつきましても、新規開拓が進み、もやし・カット野菜の売上高は21億34百万円（前年同四半期比52.9%増）となりました。

③その他

その他食品においては、商品を全面的にリニューアルした「雪国納豆」の売上が増加し、健康食品ではモンドセレクション2011の金賞を受賞した「雪国まいたけが作った家族で飲める青汁」の販売が好調に推移したことなどで、その他食品の売上高は5億97百万円（前年同四半期比9.2%増）となりました。

その他の売上高は4億7百万円（前年同四半期比1.7%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて29億94百万円増加し、409億96百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて20.6%増加し、109億96百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加し、受取手形及び売掛金が3億63百万円、商品及び製品が4億14百万円、繰延税金資産が14億93百万円、流動資産の「その他」に含まれる仮払金が3億67百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3.9%増加し、299億58百万円となりました。これは主に建物及び構築物（純額）が4億24百万円、有形固定資産の「その他（純額）」に含まれる機械装置及び運搬具（純額）が6億52百万円、同じく有形固定資産の「その他（純額）」に含まれるリース資産（純額）が3億38百万円増加し、有形固定資産の「その他（純額）」に含まれる建設仮勘定が3億22百万円減少したこと等によります。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて33.5%増加し、198億75百万円となりました。これは主に短期借入金が63億51百万円増加し、未払法人税等が1億68百万円、流動負債の「その他」に含まれる設備支払手形が10億20百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.4%増加し、176億21百万円となりました。これは主に社債が5億10百万円減少し、長期借入金が5億48百万円、固定負債の「その他」に含まれる長期リース債務が2億72百万円増加したこと等によります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて40.9%減少し、34億99百万円となりました。これは主に剰余金の配当3億61百万円、四半期純損失20億46百万円の計上によるものであります。

(キャッシュ・フローについて)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比較して5億55百万円減少し、14億1百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動におけるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は36億円（前年同四半期比115.5%増）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失35億10百万円（前年同四半期7億19百万円の純損失）及び減価償却費及びその他の償却費12億17百万円（前年同四半期比64.3%増）等によるものであります。

②投資活動におけるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の支出は29億24百万円（前年同四半期比327.0%増）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出30億42百万円等によるものであります。

③財務活動におけるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は55億95百万円（前年同四半期比135.7%増）となりました。これは主に短期借入金の純増加額61億29百万円（前年同四半期比22.5%増）、長期借入れによる収入31億20百万円、長期借入金の返済による支出23億50百万円、社債の償還による支出7億15百万円及び配当金の支払額3億61百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

懸念された消費低迷の影響については、茸の需要期となる秋を迎え販売環境は持ち直してきており、販売数量、販売価格ともに改善傾向が認められております。ぶなしめじの設備・品質面の問題については、設備に関しては順次導入が進んでおり、年内には完全に自動化ラインが整う予定であります。品質に関しては、種菌をより効率の高いものに変更したことで問題は全て解消されております。

また当社は、前述の放射能物質検査の開始に合わせて、新しい「雪国まいたけ安全システム」のサービス及び当社製品の安全性についての理解を広め、安心してご購入求めいただくために、9月15日よりテレビCMを開始しております。野生きのこの放射能汚染等の報道もあり、風評被害の広がりが危惧される中で、そうした不安を解消し、消費者の食品に対する安全性のニーズに応えることで売上の拡大を図ってまいります。

国外においては、中国・吉林省の現地法人では引き続き堅調な販売が見込まれることに加え、四川省に新設しましたえのき茸生産工場が5月より、上海市に新設しましたぶなしめじ生産工場は8月よりそれぞれ出荷を開始しており、当連結会計年度において持分法適用会社として連結業績に貢献してくる見込みであります。

平成24年3月期通期の連結業績予想につきましては、平成23年10月14日付公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおりであります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19条の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて掲載しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31 日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月30 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,379	1,443
受取手形及び売掛金	1,661	2,025
商品及び製品	1,158	1,573
仕掛品	2,441	2,493
原材料及び貯蔵品	616	656
繰延税金資産	357	<u>1,851</u>
その他	501	954
貸倒引当金	<u>△1</u>	<u>△0</u>
流動資産合計	<u>9,115</u>	<u>10,996</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	<u>12,960</u>	<u>13,384</u>
土地	<u>6,792</u>	<u>6,785</u>
その他（純額）	6,426	7,200
有形固定資産合計	<u>26,179</u>	<u>27,370</u>
無形固定資産	364	428
投資その他の資産		
その他	2,392	2,258
貸倒引当金	<u>△102</u>	<u>△98</u>
投資その他の資産合計	<u>2,289</u>	<u>2,159</u>
固定資産合計	<u>28,833</u>	<u>29,958</u>
繰延資産	52	41
資産合計	<u>38,001</u>	<u>40,996</u>
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	692	679
短期借入金	7,804	14,156
未払法人税等	243	75
引当金	250	209
その他	<u>5,891</u>	<u>4,754</u>
流動負債合計	<u>14,882</u>	<u>19,875</u>
固定負債		
社債	3,168	2,657
長期借入金	12,365	12,913
退職給付引当金	60	52
役員退職慰労引当金	470	425
その他	1,137	<u>1,571</u>
固定負債合計	<u>17,201</u>	<u>17,621</u>
負債合計	<u>32,084</u>	<u>37,496</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	<u>3,329</u>	<u>916</u>
自己株式	△1,321	△1,305
株主資本合計	<u>5,875</u>	<u>3,478</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△13	△15
繰延ヘッジ損益	△40	△116
為替換算調整勘定	△142	△118
その他の包括利益累計額合計	<u>△197</u>	<u>△251</u>
新株予約権	59	66
少数株主持分	179	205
純資産合計	<u>5,917</u>	<u>3,499</u>
負債純資産合計	<u>38,001</u>	<u>40,996</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	11,397	10,235
売上原価	8,048	9,291
売上総利益	3,349	943
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	462	536
運賃	911	1,127
報酬及び給料手当	829	881
賞与引当金繰入額	63	41
役員退職慰労引当金繰入額	25	2
雑費	1,372	1,461
販売費及び一般管理費合計	3,665	4,049
営業損失(△)	△316	△3,106
営業外収益		
受取利息	2	0
デリバティブ収益	0	—
固定資産賃貸料	30	41
雑収入	28	20
営業外収益合計	61	63
営業外費用		
支払利息	252	288
雑損失	183	168
営業外費用合計	436	457
経常損失(△)	△690	△3,500
特別利益		
貸倒引当金戻入額	7	—
新株予約権戻入益	2	9
固定資産売却益	—	1
特別利益合計	9	11
特別損失		
投資有価証券評価損	—	2
固定資産除却損	3	3
固定資産売却損	0	8
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	29	—
減損損失	6	6
特別損失合計	38	20
税金等調整前四半期純損失(△)	△719	△3,510
法人税等	△384	△1,488
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△334	△2,021
少数株主利益	74	24
四半期純損失(△)	△408	△2,046

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	<u>△334</u>	<u>△2,021</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	△2
繰延ヘッジ損益	△7	△76
為替換算調整勘定	△29	26
その他の包括利益合計	<u>△44</u>	<u>△51</u>
四半期包括利益	<u>△379</u>	<u>△2,073</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△446</u>	<u>△2,100</u>
少数株主に係る四半期包括利益	66	26

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△719</u>	<u>△3,510</u>
減価償却費及びその他の償却費	<u>740</u>	1,217
賞与引当金の増減額(△は減少)	53	△40
減損損失	<u>6</u>	<u>6</u>
支払利息	252	288
売上債権の増減額(△は増加)	△544	△363
たな卸資産の増減額(△は増加)	△501	△504
仕入債務の増減額(△は減少)	330	△36
その他	△42	<u>△162</u>
小計	<u>△424</u>	<u>△3,105</u>
利息の支払額	△257	△298
法人税等の支払額	△810	△169
その他の支出	△178	△25
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>△1,670</u>	<u>△3,600</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△467	△3,042
関係会社出資金の払込による支出	△235	—
関係会社の減資による収入	—	161
その他	18	△44
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△684</u>	<u>△2,924</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	5,004	6,129
長期借入れによる収入	1,713	3,120
長期借入金の返済による支出	△2,539	△2,350
社債の償還による支出	△643	△715
自己株式の取得による支出	△652	△0
配当金の支払額	△373	△361
その他	△135	△226
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>2,374</u>	<u>5,595</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△30</u>	<u>△14</u>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△11</u>	<u>△943</u>
現金及び現金同等物の期首残高	1,969	2,344
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>1,957</u>	<u>1,401</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	1,605	2,262	<u>3,329</u>	△1,321	<u>5,875</u>
当第2四半期連結会計期間末までの変動額					
剰余金の配当			△361		△361
四半期純損失(△)			<u>△2,046</u>		<u>△2,046</u>
自己株式の処分			△4	16	11
自己株式の取得				△0	△0
当第2四半期連結会計期間末までの変動額合計	—	—	<u>△2,412</u>	15	<u>△2,396</u>
当第2四半期連結会計期間末残高	1,605	2,262	<u>916</u>	△1,305	<u>3,478</u>

(6) 重要な後発事象
該当事項はありません。

【訂正前】



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年11月2日

上場会社名 株式会社 雪国まいたけ

上場取引所 東

コード番号 1378

URL <http://www.maitake.co.jp/>

代表者（役職名） 代表取締役社長

（氏名） 大平 喜信

問合せ先責任者（役職名） 取締役兼上席執行役員管理本部長

（氏名） 海野 光夫

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

TEL 025-778-0111

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
24年3月期第2四半期	10,235	△10.2	△2,821	—	△3,215	—	△1,869	—
23年3月期第2四半期	11,397	16.2	△317	—	△690	—	△403	—

（注）包括利益 24年3月期第2四半期 △1,897百万円（－％） 23年3月期第2四半期 △373百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	<u>△51.63</u>	—
23年3月期第2四半期	<u>△10.93</u>	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
24年3月期第2四半期	<u>42,046</u>	<u>4,840</u>	<u>10.9</u>
23年3月期	<u>39,160</u>	<u>7,081</u>	<u>17.5</u>

（参考）自己資本 24年3月期第2四半期 4,568百万円 23年3月期 6,842百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
24年3月期	—	0.00			
24年3月期（予想）			—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	31,000	16.9	1,400	△5.9	1,000	10.3	900	28.5	24.85

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社 （社名） 、 除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	38,890,375株	23年3月期	38,890,375株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	2,659,221株	23年3月期	2,691,813株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	36,210,207株	23年3月期2Q	36,885,951株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災により大きな打撃を受けた国内サプライチェーンの回復が進み、萎縮した個人消費にも一部持ち直しの動きが見えてきたものの、電力供給不足や原発事故の影響が長引き、更には欧米の景気減速と財政不安による円高・株安も深刻さを増してくるなど景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、震災後の消費マインドの冷え込みから低価格志向が強まり、また原発事故による放射能汚染の影響から、消費者の食の「安全・安心」に対する意識が一層高まるなど厳しい事業環境となりました。茸市場も、低迷する景況感から年初から安値での相場が続き、東日本大震災の影響がこれに更に拍車をかける形となりました。

こうした環境の中で、当社グループは、消費者視点でのモノ作りを追求し、高品質で安全な食品の提供に取り組んでまいりました。当社では平成20年より、自社製品の農薬・重金属検査の結果を消費者自身が確認できる「雪国まいたけ安全システム」を導入し、積極的な情報開示を行ってまいりましたが、この度の原発事故がもたらした放射能汚染に対する消費者の不安の声を受けて、当社独自の厳密な放射能物質検査機能を導入し、新しい「雪国まいたけ安全システム」として9月15日より稼働開始いたしました。

以上のような取り組みを進めてきた結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は102億35百万円（前年同四半期比10.2%減）となりました。損益面では、販売価格下落の影響と、ぶなしめじ事業の自動化設備の遅れ、品質安定化の遅れによる歩留低下やコスト増加により、営業損失は28億21百万円（前年同四半期は3億17百万円の損失）、経常損失は32億15百万円（前年同四半期は6億90百万円の損失）、四半期純損失は18億69百万円（前年同四半期は4億3百万円の損失）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント		連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
	まいたけ	3,691	86.0
	えりんぎ	1,509	78.0
	ぶなしめじ	1,056	54.3
	その他生茸	338	84.1
	生茸計	6,596	76.9
	加工食品	498	104.5
	茸計	7,094	78.4
	もやし・カット野菜	2,134	152.9
	その他食品	597	109.2
	食品計	9,827	89.4
その他		407	101.7
合計		10,235	89.8

①茸

国内の生茸の販売は、消費全体が収縮する中で茸の需要も低迷し、価格は平年を下回る厳しい相場で推移したことで、販売量、販売価格ともに前年を割り込む結果となりました。また、ぶなしめじにつきましては、前期より生産能力の拡大に向けて製造ラインの新設備の導入を進めてきましたが、一部の設備導入の遅れと品質安定化の遅れから、生産量が減少したことで大幅な売上減となりました。

国外の生茸につきましては、中国における施設栽培茸の需要は底堅く、吉林省長春市で生産・販売するえのき茸は、順調な販売実績を上げており、第2工場の建設も現在急ピッチで進めております。また、四川省に新設しましたえのき茸生産工場は5月より出荷を開始し、上海市に新設しましたぶなしめじ生産工場も8月より出荷を開始しており、中国における茸事業の拡大に向けた取り組みを着実に進めてまいりました。

加工食品は、水煮の販売及び冷凍まいたけ天ぶらの販売が好調に推移いたしました。

以上により茸の売上高は70億94百万円（前年同四半期比21.6%減）となりました。

②もやし・カット野菜

カット野菜の販売は、競合他社との競争が厳しさを増す中で、商品価値、商品完成度の高さ、そして自社での農薬検査等の安全性の高さなどの差別化を図ってきたことが、新たな販路の開拓や取り扱い数量の増加に繋がり売上を大きく伸ばしました。また、もやしにつきましても、新規開拓が進み、もやし・カット野菜の売上高は21億34百万円（前年同四半期比52.9%増）となりました。

③その他

その他食品においては、商品を全面的にリニューアルした「雪国納豆」の売上が増加し、健康食品ではモンドセレクション2011の金賞を受賞した「雪国まいたけが作った家族で飲める青汁」の販売が好調に推移したことなどで、その他食品の売上高は5億97百万円（前年同四半期比9.2%増）となりました。

その他の売上高は4億7百万円（前年同四半期比1.7%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて28億85百万円増加し、420億46百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて19.4%増加し、108億82百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加し、9億35百万円減少し、受取手形及び売掛金が3億63百万円、商品及び製品が4億14百万円、繰延税金資産が13億79百万円、流動資産の「その他」に含まれる仮払金が3億67百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3.8%増加し、311億22百万円となりました。これは主に建物及び構築物（純額）が4億23百万円、有形固定資産の「その他（純額）」に含まれる機械装置及び運搬具（純額）が6億52百万円、同じく有形固定資産の「その他（純額）」に含まれるリース資産（純額）が3億38百万円増加し、有形固定資産の「その他（純額）」に含まれる建設仮勘定が3億22百万円減少したこと等によります。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて31.8%増加し、196億5百万円となりました。これは主に短期借入金が63億51百万円増加し、未払法人税等が1億68百万円、流動負債の「その他」に含まれる設備支払手形が10億20百万円、同じく流動負債の「その他」に含まれる未払金が2億46百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.3%増加し、175億99百万円となりました。これは主に社債が5億10百万円減少し、長期借入金が5億48百万円、固定負債の「その他」に含まれる長期リース債務が2億72百万円増加したこと等によります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて31.6%減少し、48億40百万円となりました。これは主に剰余金の配当3億61百万円、四半期純損失18億69百万円の計上によるものであります。

(キャッシュ・フローについて)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比較して5億55百万円減少し、14億1百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動におけるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は36億円（前年同四半期比115.5%増）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失32億19百万円（前年同四半期7億13百万円の純損失）及び減価償却費及びその他の償却費12億17百万円（前年同四半期比64.3%増）等によるものであります。

②投資活動におけるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の支出は29億24百万円（前年同四半期比327.0%増）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出30億42百万円等によるものであります。

③財務活動におけるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は55億95百万円（前年同四半期比135.7%増）となりました。これは主に短期借入金の純増加額61億29百万円（前年同四半期比22.5%増）、長期借入れによる収入31億20百万円、長期借入金の返済による支出23億50百万円、社債の償還による支出7億15百万円及び配当金の支払額3億61百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

懸念された消費低迷の影響については、茸の需要期となる秋を迎え販売環境は持ち直してきており、販売数量、販売価格ともに改善傾向が認められております。ぶなしめじの設備・品質面の問題については、設備に関しては順次導入が進んでおり、年内には完全に自動化ラインが整う予定であります。品質に関しては、種菌をより効率の高いものに変更したことで問題は全て解消されております。

また当社は、前述の放射能物質検査の開始に合わせて、新しい「雪国まいたけ安全システム」のサービス及び当社製品の安全性についての理解を広め、安心してご購入いただくために、9月15日よりテレビCMを開始しております。野生きのこの放射能汚染等の報道もあり、風評被害の広がりが危惧される中で、そうした不安を解消し、消費者の食品に対する安全性のニーズに応えることで売上の拡大を図ってまいります。

国外においては、中国・吉林省の現地法人では引き続き堅調な販売が見込まれることに加え、四川省に新設しましたえのき茸生産工場が5月より、上海市に新設しましたぶなしめじ生産工場は8月よりそれぞれ出荷を開始しており、当連結会計年度において持分法適用会社として連結業績に貢献してくる見込みであります。

平成24年3月期通期の連結業績予想につきましては、平成23年10月14日付公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおりであります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19条の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて掲載しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31 日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月30 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,379	1,443
受取手形及び売掛金	1,661	2,025
商品及び製品	1,158	1,573
仕掛品	2,441	2,493
原材料及び貯蔵品	616	656
繰延税金資産	357	<u>1,736</u>
その他	501	954
貸倒引当金	<u>△1</u>	<u>△0</u>
流動資産合計	<u>9,115</u>	<u>10,882</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	<u>12,976</u>	<u>13,400</u>
土地	<u>7,934</u>	<u>7,934</u>
その他（純額）	6,426	7,200
有形固定資産合計	<u>27,337</u>	<u>28,534</u>
無形固定資産	364	428
投資その他の資産		
その他	2,392	2,258
貸倒引当金	<u>△102</u>	<u>△98</u>
投資その他の資産合計	<u>2,289</u>	<u>2,159</u>
固定資産合計	<u>29,992</u>	<u>31,122</u>
繰延資産	52	41
資産合計	<u>39,160</u>	<u>42,046</u>
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	692	679
短期借入金	7,804	14,156
未払法人税等	243	75
引当金	250	209
その他	<u>5,886</u>	<u>4,484</u>
流動負債合計	<u>14,877</u>	<u>19,605</u>
固定負債		
社債	3,168	2,657
長期借入金	12,365	12,913
退職給付引当金	60	52
役員退職慰労引当金	470	425
その他	<u>1,137</u>	<u>1,550</u>
固定負債合計	<u>17,201</u>	<u>17,599</u>
負債合計	<u>32,078</u>	<u>37,205</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	<u>4,493</u>	<u>2,257</u>
自己株式	△1,321	△1,305
株主資本合計	<u>7,039</u>	<u>4,819</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△13	△15
繰延ヘッジ損益	△40	△116
為替換算調整勘定	△142	△118
その他の包括利益累計額合計	<u>△197</u>	<u>△251</u>
新株予約権	59	66
少数株主持分	179	205
純資産合計	<u>7,081</u>	<u>4,840</u>
負債純資産合計	<u>39,160</u>	<u>42,046</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	11,397	10,235
売上原価	8,048	9,291
売上総利益	3,349	943
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	462	250
運賃	911	1,127
報酬及び給料手当	829	881
賞与引当金繰入額	63	41
役員退職慰労引当金繰入額	25	2
雑費	1,373	1,462
販売費及び一般管理費合計	3,666	3,765
営業損失(△)	△317	△2,821
営業外収益		
受取利息	2	0
デリバティブ収益	0	—
固定資産賃貸料	30	41
雑収入	28	20
営業外収益合計	61	63
営業外費用		
支払利息	252	288
雑損失	182	168
営業外費用合計	435	457
経常損失(△)	△690	△3,215
特別利益		
貸倒引当金戻入額	7	—
新株予約権戻入益	2	9
固定資産売却益	—	1
特別利益合計	9	11
特別損失		
投資有価証券評価損	—	2
固定資産除却損	3	3
固定資産売却損	0	8
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	29	—
特別損失合計	32	14
税金等調整前四半期純損失(△)	△713	△3,219
法人税等	△384	△1,373
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△329	△1,845
少数株主利益	74	24
四半期純損失(△)	△403	△1,869

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	<u>△329</u>	<u>△1,845</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	△2
繰延ヘッジ損益	△7	△76
為替換算調整勘定	△29	26
その他の包括利益合計	<u>△44</u>	<u>△51</u>
四半期包括利益	<u>△373</u>	<u>△1,897</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△440</u>	<u>△1,923</u>
少数株主に係る四半期包括利益	66	26

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△713</u>	<u>△3,219</u>
減価償却費及びその他の償却費	<u>741</u>	1,217
賞与引当金の増減額(△は減少)	53	△40
支払利息	252	288
売上債権の増減額(△は増加)	△544	△363
たな卸資産の増減額(△は増加)	△501	△504
仕入債務の増減額(△は減少)	330	△36
その他	△42	<u>△447</u>
小計	<u>△424</u>	<u>△3,105</u>
利息の支払額	△257	△298
法人税等の支払額	△810	△169
その他の支出	△178	△25
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>△1,670</u>	<u>△3,600</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△467	△3,042
関係会社出資金の払込による支出	△235	—
関係会社の減資による収入	—	161
その他	18	△44
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△684</u>	<u>△2,924</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	5,004	6,129
長期借入れによる収入	1,713	3,120
長期借入金の返済による支出	△2,539	△2,350
社債の償還による支出	△643	△715
自己株式の取得による支出	△652	△0
配当金の支払額	△373	△361
その他	△135	△226
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>2,374</u>	<u>5,595</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△30</u>	<u>△14</u>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△11</u>	<u>△943</u>
現金及び現金同等物の期首残高	1,969	2,344
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>1,957</u>	<u>1,401</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	1,605	2,262	<u>4,493</u>	△1,321	<u>7,039</u>
当第2四半期連結会計期間末までの変動額					
剰余金の配当			△361		△361
四半期純損失(△)			<u>△1,869</u>		<u>△1,869</u>
自己株式の処分			△4	16	11
自己株式の取得				△0	△0
当第2四半期連結会計期間末までの変動額合計	—	—	<u>△2,236</u>	15	<u>△2,220</u>
当第2四半期連結会計期間末残高	1,605	2,262	<u>2,257</u>	△1,305	<u>4,819</u>

(6) 重要な後発事象
該当事項はありません。